

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・ホームの理念を掲示し、ホーム会議・朝礼で唱和し理念の共有化に努めている	週初め月曜日のミーティング時に各フロアから夜勤者、日勤帯の職員が朝礼に代表として出席し、社是等の唱和をしている。法人理念についてホーム利用開始時に、利用者や家族等に十分な説明をし理解をいただいている。職員の言動等に理念にふさわしくないことがあった場合には、管理者から注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事に参加して頂いたり、地区の育成会の催しでの子供たちとの交流や文化祭への作品出品など地域とのつながりを大切にしている。毎年の中学生職場体験学習の受け入れが増加している。	ホームとして自治会費を納めている。区の行事内容の情報を頂いているため内容を把握できホームとして参加している。地区の文化祭に利用者の作品(壁飾り・貼り絵等)を出展したり、育成会の連絡を受け神輿のトイレ休憩所の提供をしたり、利用者も外に出て神輿を迎え祭りを楽しまれたり、地域に溶け込んでいる。月2回傾聴ボランティアを受け入れたり、市全域の中学生の職場体験を年間計画に組み込みフロアで1日1名ずつ受け入れたりと、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様に迷惑のかからない範囲内で必要に応じて事業所の特徴を活かした広報を心がけ、市や社協と合同での活動も積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見を職員全員で共有して、サービスの向上に向け話し合い取り組んでいる	運営推進会議を定期的に行い、家族代表、区長、民生児童委員、高齢者福祉課及び地域包括支援センター職員、法人の支店長等の参加があり、ホームの現状や活動報告をし、参加者からも様々な意見や情報発信を頂き、地域と共に歩むホーム運営に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢者福祉課へは近況報告・ホームの空き情報も含めて連絡・相談に訪問している。介護保険事業の動向から入居希望者の紹介まで幅広く情報をいただいている。	介護認定更新の調査や手続き等はホームにて行い、日頃の情報提供などで協力をしている。ケアマネージャー会議や不定期の市内グループホーム会議等には出席できるように心がけ、情報収集に当たっている。介護相談員の受け入れが年に数回行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に沿って研修を行ない、日常的にケアにおいて問題があればその都度検討・指導して、全職員が取り組んでいる。現在、防犯のため夜間のみ玄関施錠をしており、居室の施錠はしていない	離設傾向のある利用者の方については気分転換に散歩に出かけ心身のケアに当たっている。所在確認は改めてすることはないが、食事時と午前・午後のおやつ時、夜間0時、4時に確認がとれている。ホーム内の研修では身体拘束にも繋がるような言葉遣いなどについても話し合い、より良いサービスの提供に努めている。	

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に沿って研修を行ない、ご利用者様の身体や精神面の変化に常に気を配り、小さな変化も必ず報告している。職員全員に指導し、都度カンファレンスすることで風通しを良くしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市高齢者福祉課の研修会への参加で情報を頂いている。成年後見人制度を利用されている方の入居希望も有り、学ぶ機会が必要と考え研修に取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約取り交わし時に契約書・重要事項説明書に沿って(個人情報取り扱いも含)説明、疑問・不明点を確認している。また、後日気付いた点等あった場合、お知らせいただけるようお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会にご家族様とコミュニケーションを取り、率直なご意見等を頂ける様働きかけている。頂いたご意見・苦情等は早急に共有し解決に向けて話し合うようにしている。	利用者全員の方が自身の要望を何らかの方法で表出でき、特に繰り返し表す言葉や行動は個別の介護記録にカギカッコの記入方法で分かりやすく記している。家族等の来訪時にはケアマネージャーや管理者が利用者の詳しい近況を報告し意見交換に努めている。月の利用料の請求書発送時には居室担当者からの近況コメントと利用者の日常のスナップ写真を掲載したお便りを添え家族等に発送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言する場を設けたり、個々に面談を行なっている。日頃から職場内で意見を言いやすい環境づくりに取り組んでいる	全職員対象のホーム会議を毎月定期的に行い、各ユニット会議は必要時に随時行っている。職員からの意見等を検討し、ホーム運営に活かしている。法人として人事考課制度があり管理者と面談を年2回ぐらい行うが相談等はその都度受け付け、話を聞き解決するようにしている。福利厚生の一環として新年会、忘年会、食事会等も行い意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別職員の意向を重視しながら やりがいや向上心を持てる職場環境づくりに取り組めるよう働きかけがある。人事考課により個別の業績評価の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種・職位・技量に応じ、法人内研修の受講を実施している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、勉強会やネットワーク作りに参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・相談から得たご利用者様についての情報を共有し、安心して過ごしていただける環境作りを心がけている。日常においてもよくコミュニケーションをとり、訴えを聞き取るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接・相談において不安や困った事等をよく伺い、要望・状況に基づいたプラン作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居理由をしっかりと伺い、その方にとって一番よいサービス方法のひとつをお話させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常においてよくコミュニケーションを取ると共に必要に応じてスキンシップをはかり、協力しながら生活を共に築いていく姿勢に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際に食事の介助をして頂いたり、日頃の様子や心身状態をお伝えしている。また、月に一度お手紙で近状をお知らせしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の交友関係者の面会を受け付けたり 電話の取次ぎ、手紙の投函依頼を受けています。日常の生活の中で過去の記憶や思い出をお聴きし、共有・共感出来る様に努めている	親戚や以前のグループ活動の仲間の訪問を受けたり、家族と馴染みの美容院やお墓参りに出かける方がいる。ホームでの生活がスムーズにできるよう、職員はあらゆる角度から検討し、それぞれの利用者の思いに沿い馴染みの関係を続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの立場を把握し、ご利用者同士が上手くコミュニケーション取れるように支援している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を差し上げる等、柔軟な対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員がご利用者様一人ひとりに寄り添い、希望や意向を十分理解できるよう努めている。利用者に接する中で得た情報を職員が共有し、また、カンファレンスなどでも検討する機会を多く設けている	本人の自己決定を尊重し日常的に対応するため職員は「無理強いしない、深追いをしない、強制しない」を心掛けサービス提供に当たっている。表出することが難しい利用者については職員の声かけにより選択をしていただいている。利用者の様子の変化に気がついた時には居室を訪ねたり、入浴時など一人の時を見計らい話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントにより得たご利用者様それぞれの情報を全職員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討し、現有機能を活かした支援に努めている。心身状態について都度細かに申し送り、職員全員が把握し、安心して生活して頂ける様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様がより安心して暮らして頂ける様、カンファレンスでの意見やご家族様の要望・ご意見も取り入れた介護計画書を作成、計画に基づいた支援をしている。また、必要に応じて都度カンファレンスを行ない、作成。	「日常生活支援シート」に沿って、ケアを行っている。各フロアでの情報をケアマネージャーが収集し、ADL(日常生活動作)などの現状を検証後、総合判断をし計画を作成している。家族等にも速やかに報告、説明等を行い、意見等を計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録しているが、特別なことがあった場合は申し送りをし、職員間で情報を共有してその日の状態に合ったケアを行なっている。また状態によっては早急にカンファレンスを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で柔軟な姿勢でニーズに対応している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医に訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診して頂いている。医療機関同士で連絡を取り合っており、訪問診療の経過、ホームの様子についてご家族様へ定期的に連絡している	ホームの協力医を利用している方が半数以上おり、その他の方は以前からの医師を継続し家族対応をしていただいている。歯科に関しては必要に応じて協力医に連絡をし、訪問診療をお願いしている。利用者の薬はファックス後、翌日調剤薬局より届けていただき、薬の仕訳は間違いを防ぐため必ず職員2名以上で行い細心の注意を払っている。週1回の訪問看護を契約しており、24時間の緊急対応も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問の際には容態を報告し、「訪問看護記録」にその様子等を記録していただき 全職員に申し送っている。1回/月は訪問診療・訪問看護立合いで 情報共有して下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と提携医で利用者の様子について連絡を取り合っている。入院中は、管理者・ケアマネージャーが病院訪問し情報交換を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望やご本人の思いが叶う様医療と連携を取りながら安楽な生活をして頂けるよう支援している	看取りについて利用開始時、家族等に説明を行い理解をいただいているが、直面した場合には利用者、家族等と十分に話し合い医療連携を取りながら住み慣れた場所での終末期の対応に努めている。職員は、研修やミーティングにより看取りについて十分に理解し支援に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対して「緊急対応マニュアル」をフロア内に掲示すると共にケアスタッフマニュアルに記載された対応を熟読し実践できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いそれぞれのご利用者の避難方法を話し合い、地域の皆様にも協力して頂ける様お願いし、協力体制に努めている	ホームは2階建てで、2階部分は外付けの非常階段があり避難訓練時には実際に歩ける利用者と職員で階段を降り避難をしている。また、月1回消火器の点検を行い災害等に対する意識を高めている。非常時に備え、水、ごはん類、介護用品等が備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけを行ない、尊敬の思いを持ってお話させていただく様に徹底統一している。個人情報の破棄にはシュレッダーを使用している	声掛けは基本的に名前に「さん」付けでお呼びしているが、本人や家族等の意向で変わる時もある。職員は利用者の気持ちを大切にアプローチを考え、話し掛けている。決して強引なかかわり方をせず、利用者の得意分野を見つけ、話のきっかけを掴んで会話の糸口を探するなど、利用者本位という姿勢が職員に浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意志を引き出せる様な声かけや、思いや希望を表せるような環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の意思を尊重し、体調と合わせてそれぞれのペースで毎日を過ごして頂ける様支援させて頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪・髭剃り等出来る事はして頂き、ご本人の希望に添った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物や昔からの馴染みの献立を取り入れ、下ごしらえや盛り付け等一緒にして頂いている。五平もちやおはぎ等手作りの食事会を企画して活躍の場を作りだしている。	ほぼ全員の利用者が自力で食事ができる。職員の声掛けで促す利用者も若干いたが「ここのご飯はおいしい、おいしい」と完食されていた。献立は3回分を一人の職員が立て、3日に一度食材の調達に出かけている。家族からは新米などの差し入れがあり、近所の方からも干し柿、ブドウ、キュウリ等、果物や野菜など色々ないただき物があり、ホームの庭の野菜などの収穫も利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	容態により献立や食事の形態を変更するなど状況に応じて都度対応させて頂いている。ご本人のペースで水分が摂れる様に、ゆっくり時間をかけ、こまめに声かけする等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携医の指導も踏まえ、個々の状態に合わせた口腔ケアを毎食後行なっている。また、必要に応じてアイスマッサージなども行なっている		

ニチケアセンター 柏木

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々の排泄パターンや習慣に合わせた声がけ、誘導・介助を行ない出来る限り自立での排泄が続けていける様に支援している	布パンツの方やリハビリパンツにパット使用の方などがあるが、家族等の負担軽減も考え単価を下げるために、段ボール箱でのまとめ買いをして工夫をしている。居間兼食堂など、人前での失敗があった時にはさりげなくトイレや居室に移動をしていただき、尊厳を大切に支援をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品等摂って頂くようにしている。水分が摂りにくい方にはゼリーなどで摂取して頂いている。また、食事には繊維質の多い食材を取り入れたり、定期的な散歩や毎日の体操を行なうなど予防に努めている	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や様子に配慮しながら出来る限り希望に添って入浴して頂いている。気乗りしない日は手足浴を勧めたり入浴剤を使用するなど気分転換をして頂けるように工夫している	利用者の中には立位保持のため二人介助で入浴する方がいる。入浴時間は午前と午後、利用者に合わせ対応している。それぞれのお気に入りのシャンプーを使い、また、香の高い入浴剤を使用するなど、気持ち良く入浴できるようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候や状態に応じて外気浴・レクリエーション等の参加の心がけをしているが、それぞれにお好きな事をして頂き、気分転換を図るなど安眠休息のための個別支援に努めている	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬マニュアルにしたがって管理しており、提携薬局より都度指導頂き、薬局担当が申し送り全職員が理解できるように努めている。また、症状の変化等について提携医と連携をとり、確認に努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や趣味を活かせるように日々支援させていただいている。毎月2回程度、誕生日会や季節の行事を計画、準備から協力して行事を盛り上げて頂き気分転換できるように支援している	

ニチケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望がある時は積極的に出かけ、職員からの声かけでも定期的に屋外に出かける機会を作るように努めている。また、ご家族様の協力も得て出かけられる様に支援している	ホームの庭の花見から始まり日常的に外出を心掛けている。外へ出掛ける時には車椅子利用の方が三分の一ほどいる。ホームのある地域の資源を十分に活かし、「桜が咲いた」、「ソバの花が咲いた」、「近所の庭の花が見事に咲いた」等の情報が入ると、フットワークも軽く散歩に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご本人様の希望や必要に応じて買い物等に出かけ、ご自身でお支払いして頂けるよう援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでもご家族様や大切な方と電話・手紙のやり取り後、出来る様に援助している。また、毎年フロアで年賀状をご本人様の自筆で手作りし、ご家族様に送らせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く事のない様極力配慮している。係りが中心となって、生活感や季節感をとり入れた装飾等を行ない、居心地良く過ごして頂ける様工夫している	玄関から居間兼食堂に入ると、キッチンコーナーや外に続く掃き出し窓があり明るい空間になっている。右手奥の廊下の両サイドには各居室が並び見通しが利くようになっている。また、天気の良い日や、足の運びの歩行訓練に長い廊下が活用されている。壁面には彩の良い貼り絵や切り絵などの作品が飾られており、共有スペース全体に温かみを感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望を伺ったり、ご本人の様子によって声かけするなどして、一人ひとりが思い思いに過ごして頂ける様に心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様と相談して、使い慣れた物や家具を置くなど、馴染みのある居心地の良い環境作りの工夫に努めている	居室についてはそれぞれ住みやすい空間を作り出して、テーブルや小ぶりのダンス、テレビ等を置き、エアコンも完備されているので過ごしやすい。見させていただいた全ての居室の壁には手の込んだ綺麗な職員手作りの誕生カードが飾られており、利用者を思いやる職員の気持ちも伝わり、ホームでの充実した暮らしを送られていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになる物、危険だと思われる物は取り除くなど安全に配慮しながらご本人の意思で出来る限り自立した生活が出来るよう援助している		